

## 2. 授業評価アンケート調査結果

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業評価アンケートを実施することになっている。平成 21 年度は前学期 7～8 月、および、後学期 1～2 月に、全科目の受講学生を対象として実施している。有効回収数は合計 4590 件であり、その内訳は以下の表（表 1 および表 2）に示す通りである。

表 1 前期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	グローバル	その他	無記入	総計
院科目	97	259	138	34	1	67	9	68	673
学部演習	67	30	31	16	16		1	8	169
学部講義	249	299	170	77	100	6	270	459	1630
実験実習	28	23	21	15	15			9	111
卒業研究	18	18	15	1				5	57
総計	459	629	375	143	132	73	280	549	2640

表 2 後期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	グローバル	その他	無記入	総計
院科目	80	39	63	25	7	35	14	53	316
学部演習	63	21	6	1	10			10	111
学部講義	313	309	228	52	28	24	149	191	1294
実験実習	64	36	36	6	8	7		15	172
卒業研究	22	21	6	1	3			4	57
総計	542	426	339	85	56	66	163	273	1950

この授業評価アンケートでは、授業の満足度、受講を決めた理由、授業環境などが、毎回ほぼ定型の質問文により尋ねられている。回収されたデータは数値化して集計されているが、それぞれの担当講師に対するコメントや要望も同時に自由記述により記入・回収され、個別の授業の改善に役立てられている。

以下、数値化されたデータから重要と思われるポイントについて、集計結果をグラフによって示す。

① 授業環境について

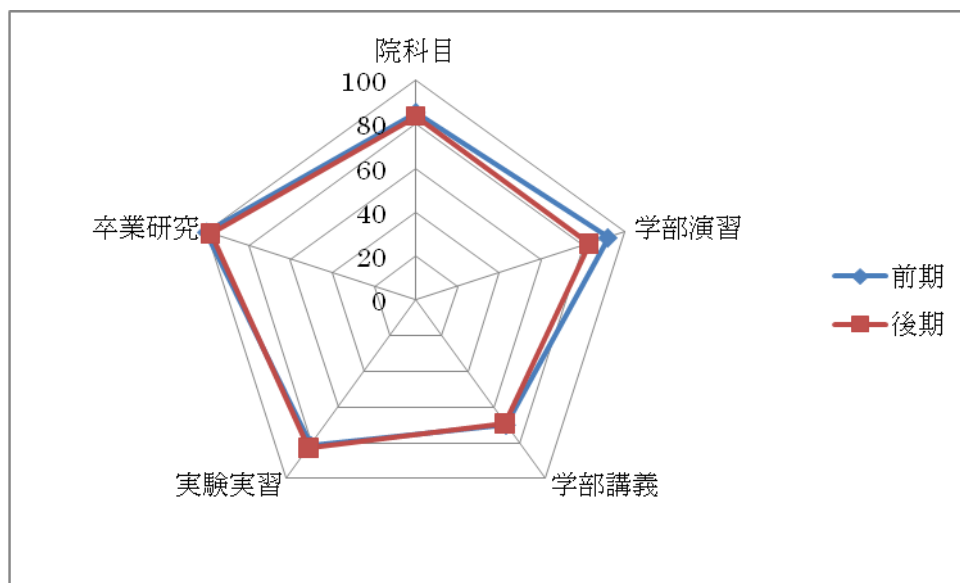


図 1 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

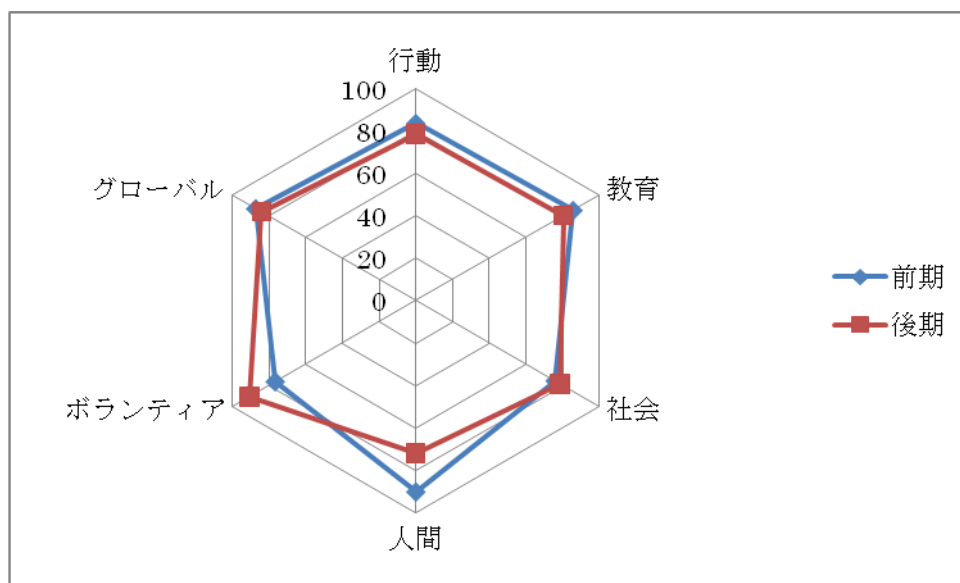


図 2 「授業環境に問題なし」の回答の学系間比較 (%)

図 1、図 2 は授業環境に関する学生の評価結果である。授業環境については全体として大きな問題はないと思われるが、学部講義においては、授業環境に問題なしとする回答が他の授業形態より低い傾向がある。前後期の比較では、後期において人間学系で問題なしとする比率が低下している一方で、ボランティアでは比率が高くなっている。

表 3 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	グローバル	その他	無記入
問題無	83.78	85.38	75.70	90.35	76.36	86.96	56.32	64.43
マイク	1.23	2.32	0.31	0.00	0.91	0.00	14.56	17.00
モニタ	7.86	4.10	8.10	0.88	6.36	5.80	13.79	13.65
照明	0.49	1.07	1.56	0.00	0.91	2.90	0.38	1.79
教室サイズ	1.97	1.43	5.61	2.63	7.27	2.90	8.43	7.38
椅子机	1.97	1.96	4.67	1.75	0.00	4.35	5.36	2.91
室温	4.67	7.66	8.41	7.02	12.73	1.45	17.24	12.75
騒音	2.21	0.36	1.56	0.00	0.91	0.00	0.77	1.57
私語	0.98	0.89	3.43	0.00	0.00	1.45	14.18	10.07
携帯電話	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77	0.00
人数	459	629	375	143	132	73	280	549

表 4 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（後期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	グローバル	その他	無記入
問題無	92.63	55.26	73.21	40.35	35.45	60.87	26.82	30.20
マイク	1.23	0.71	0.93	0.88	0.91	4.35	8.43	4.47
モニタ	7.37	4.10	7.48	3.51	0.91	4.35	7.28	6.04
照明	0.98	0.53	0.93	0.88	0.00	0.00	0.77	0.67
教室サイズ	5.16	2.14	1.56	3.51	0.91	1.45	7.66	5.59
椅子机	2.46	1.96	2.18	6.14	0.91	1.45	6.90	4.25
室温	13.76	5.17	10.59	5.26	0.91	2.90	8.05	8.05
騒音	0.74	0.00	0.31	2.63	0.00	1.45	0.77	0.22
私語	0.74	1.60	0.00	2.63	0.00	1.45	9.20	3.13
携帯電話	0.25	0.36	0.31	0.00	0.00	0.00	0.38	0.00
人数	542	426	339	85	56	66	163	273

表 3、表 4 は授業環境についての学生の要望を所属系別に示したものである。前後期を通じて 10% を超える改善要望があったのは、マイク・モニタ・室温・私語に関してで、特に室温に対する改善要望が高い。また、表 5 は後期の比率から前期の比率を引いたものであり、黒字は増加（＝改善の要望が増えたことを意味する）、カッコのついた赤字は減少（＝改善の要望が減少したことを意味する）を示している。前後期を比較すると、モニタ・照明・教室サイズ・室温・騒音に関して、過半数を超える学系で改善要望が減少している。

表 5 評価の変化（後期－前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	グローバル	その他
問題無	8.85	(30.12)	(2.49)	(50.00)	(40.91)	(26.09)	(29.50)
マイク	0.00	(1.60)	0.62	0.88	0.00	4.35	(6.13)
モニタ	(0.49)	0.00	(0.62)	2.63	(5.45)	(1.45)	(6.51)
照明	0.49	(0.53)	(0.62)	0.88	(0.91)	(2.90)	0.38
教室サイズ	3.19	0.71	(4.05)	0.88	(6.36)	(1.45)	(0.77)
椅子机	0.49	0.00	(2.49)	4.39	0.91	(2.90)	1.53
室温	9.09	(2.50)	2.18	(1.75)	(11.82)	1.45	(9.20)
騒音	(1.47)	(0.36)	(1.25)	2.63	(0.91)	1.45	0.00
私語	(0.25)	0.71	(3.43)	2.63	0.00	0.00	(4.98)
携帯電話	0.25	0.36	0.31	0.00	0.00	0.00	(0.38)

② 授業選択理由について

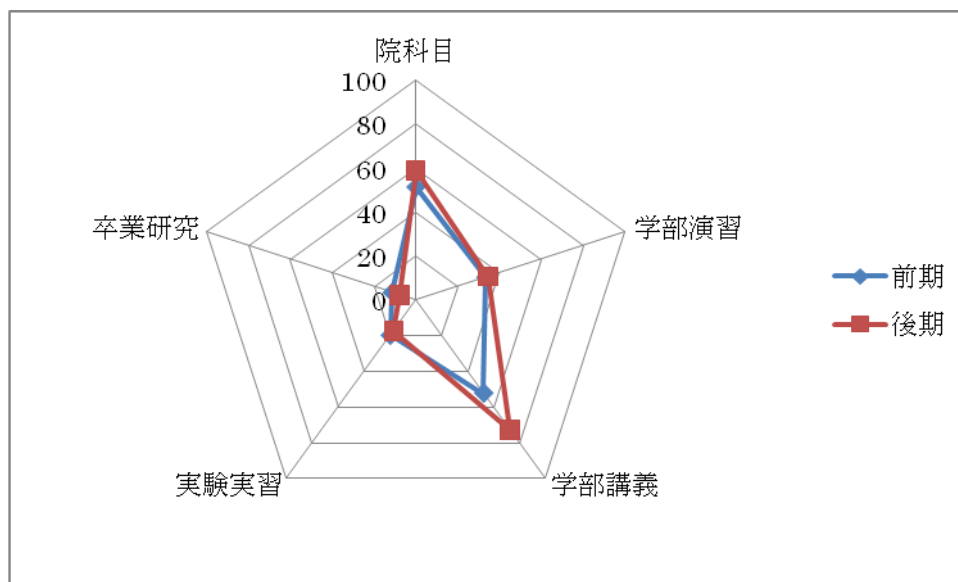


図 3 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の授業形態別比較 (%)

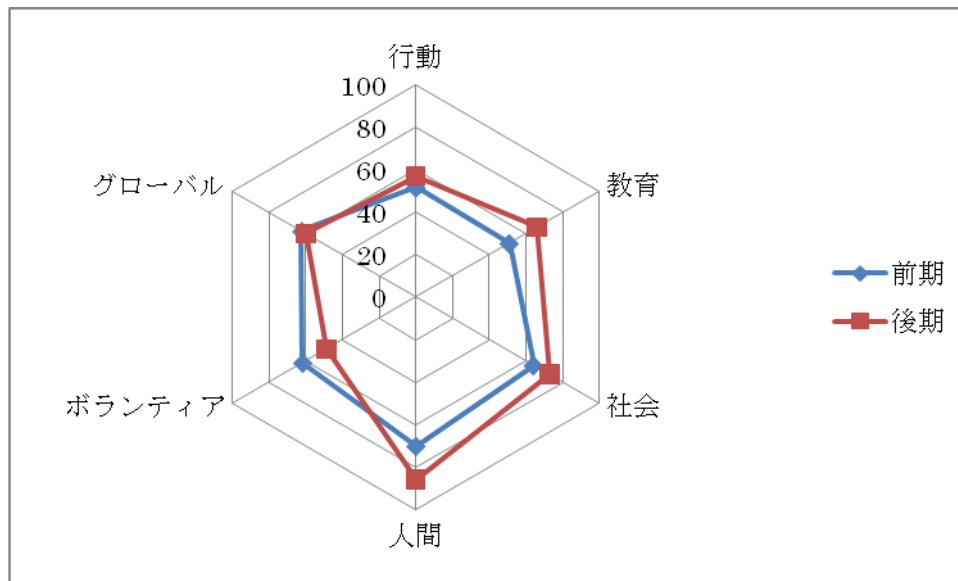


図 4 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の学系間比較 (%)

図 3、図 4 はシラバスが有効に利用されているかどうかを示すために、受講を決めた理由として「シラバスに興味を持った」という項目が選択された率を示したものである。

図 3 について、学部講義ではシラバスが有効に利用されていることがうかがえ、講義系科目ではシラバスの内容が受講の意志決定に重要な役目を果たしていると考えられる。演習・実習系の授業ではシラバスに興味を持ったとする回答は少ない。これらの科目はそもそも専門性の高い内容を扱うものであり、また自分の専攻する領域の学習にとっては必須であると考え、シラバスの内容に関係無く受講することが多いということが推察される。

学系間の比較では、前期は「シラバスに興味を持った」とする回答が人間学系で若干多く、教育学系で若干少ないが、各学系とも概ね似たような結果が出ている。後期では、ボランティア人間科学系で「シラバスに興味を持った」とする回答が前期に比べて減少している一方で、教育学系・社会学系・人間学系では増加している。

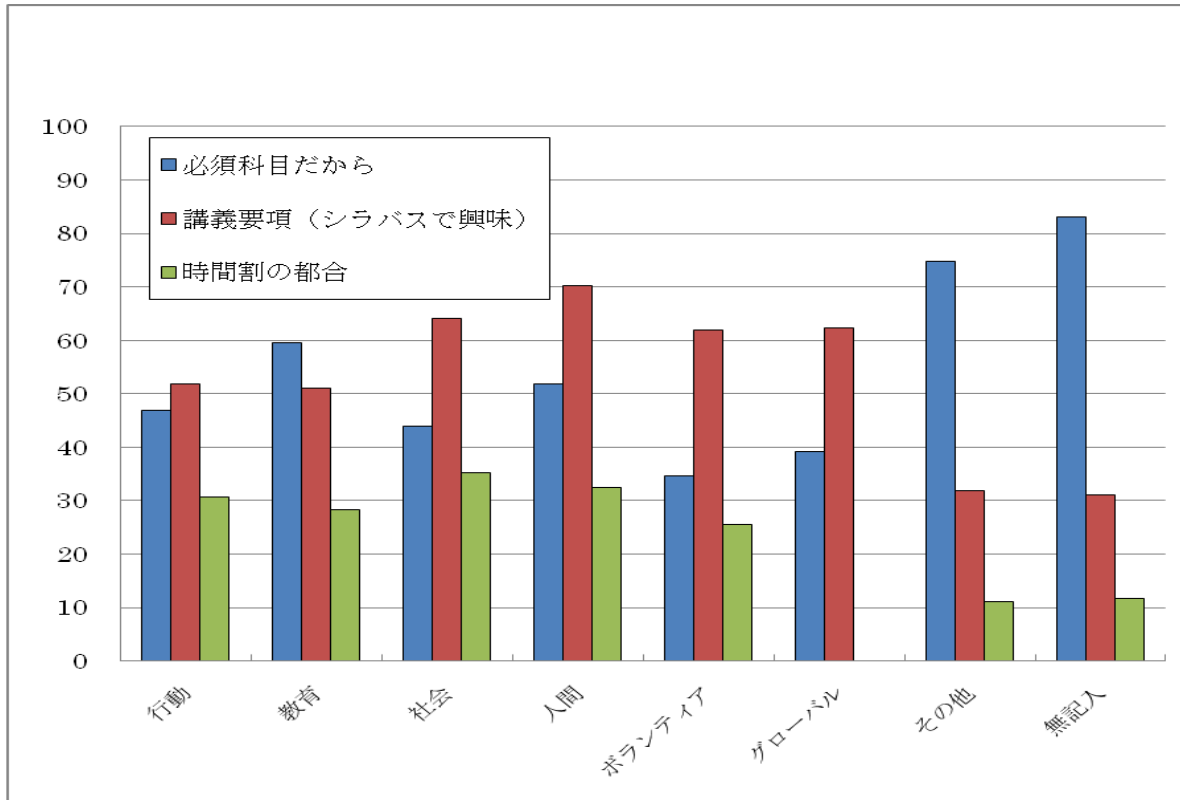


図 5 授業選択理由の学系間比較 (前期)

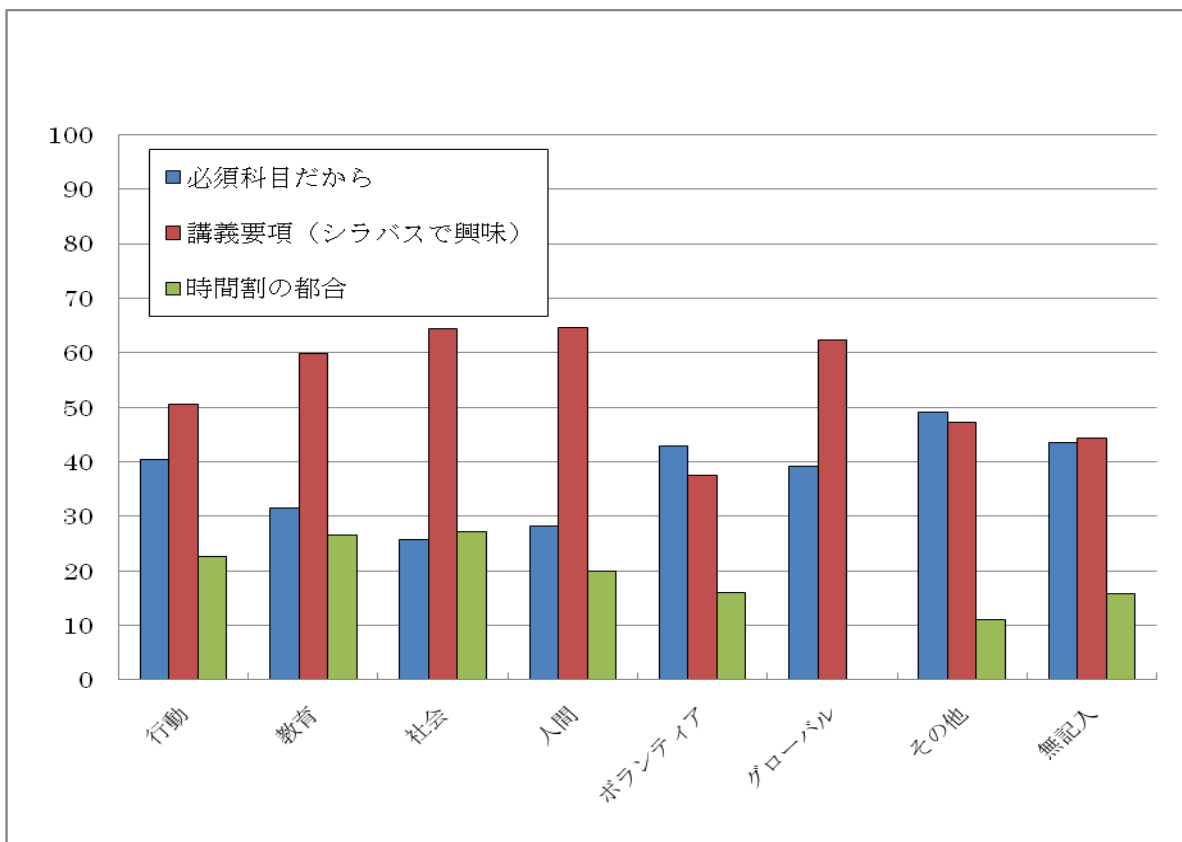


図 6 授業選択理由の学系間比較 (後期)

図 5、図 6 は授業選択理由に対する学系別の結果のうち「必修科目だから」「講義要項（シラバスで興味）」「時間割の都合」のみを取り出し図示したものである。行動学系・社会学系・人間学系・グローバル人間学系では、前後期を通してシラバスで興味を引かれ受講したとする回答が最も多い。教育学系では前期に、ボランティア人間科学系では後期に、シラバスで興味を引かれ受講したとする回答よりも、必須科目だから受講したとする回答がやや上回っている。

③ 授業の満足度について

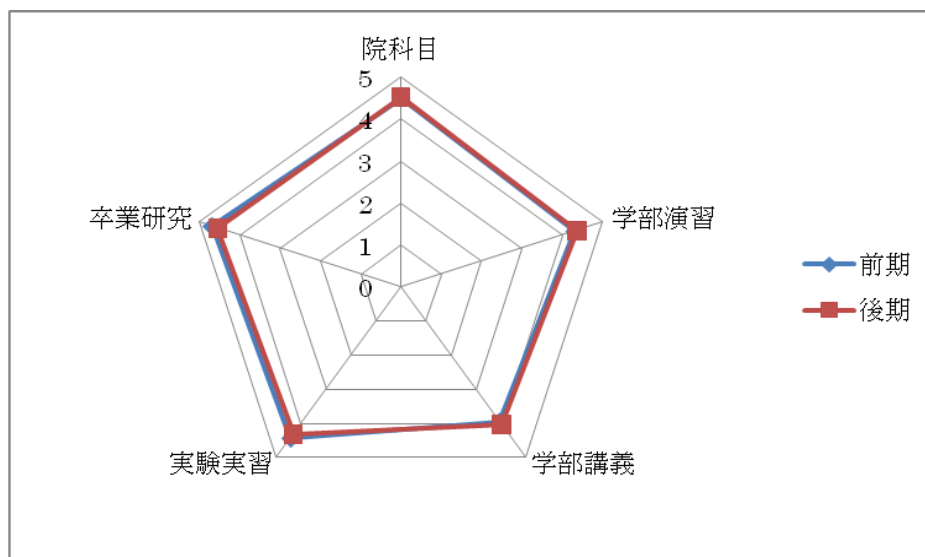


図 7 総合満足度平均値の授業形態別の比較

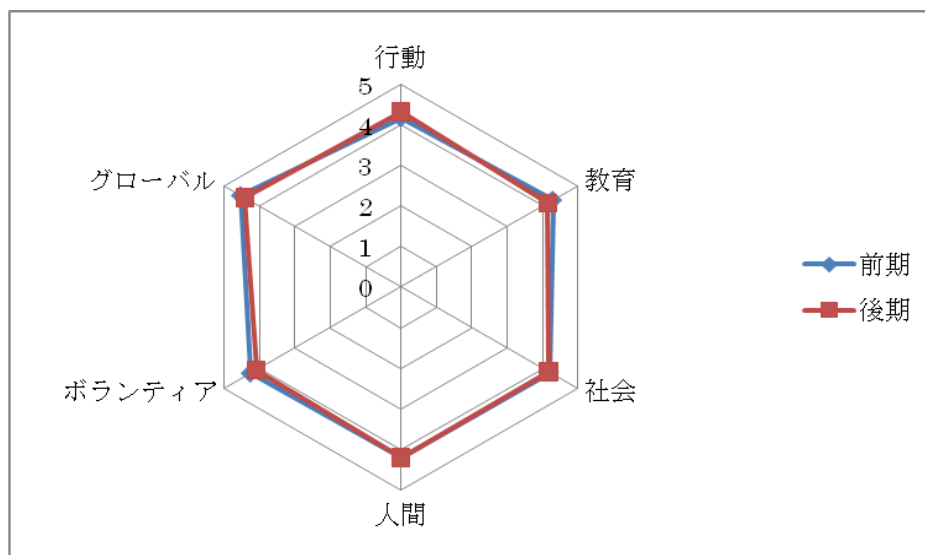


図 8 総合満足度平均点の学系別の比較

図 7、図 8 は授業の満足度についての結果である。授業形態別では学部講義の評価がやや低い。また、学系間、前後期での違いはほとんど見られないが、前後期ともグローバル人間学系の満足度がやや高い。

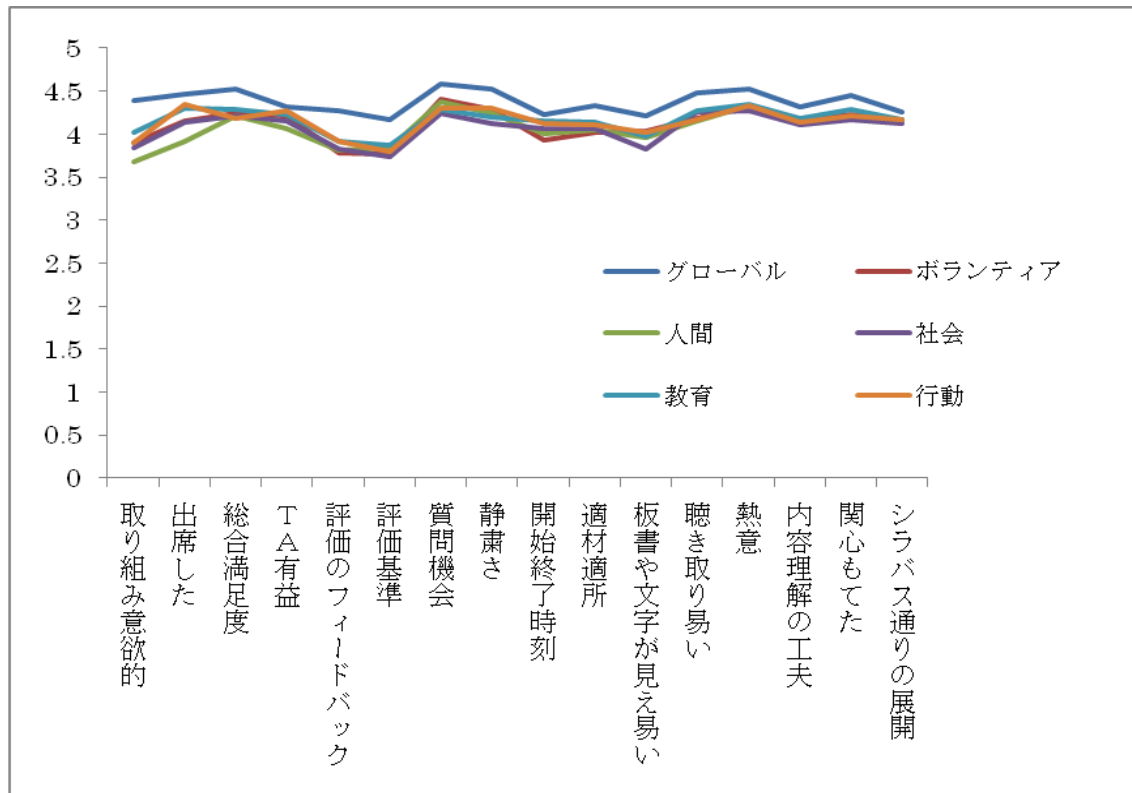


図 9 自分が所属する学系の科目に対する評価（前期）

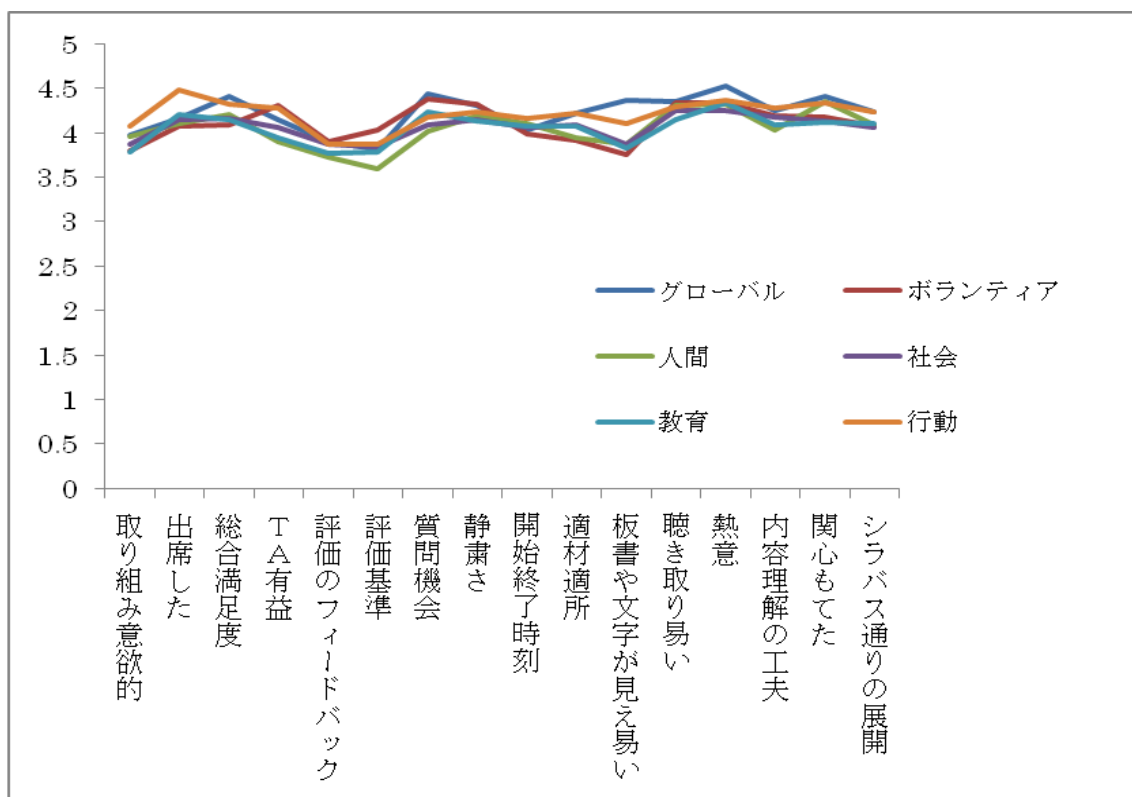


図 10 自分の所属する学系の科目に対する評価（後期）



図 9、図 10 は、各学系に所属する学生が、自分の所属している学系の科目に対してどのような評価をしているかを見たものである（得点が高いほど肯定的評価を意味している）。全体的に、評価に関連する項目が、他に比べてやや低い傾向がある。前期は、いずれの項目でもグローバル人間学系で評価が高く、他の学系は概ね同じような結果になっている。後期は前期に比べて各学系の間でばらつきが出ており、前期のように突出した学系はない。

④ 総合満足度の比較

【学部科目】

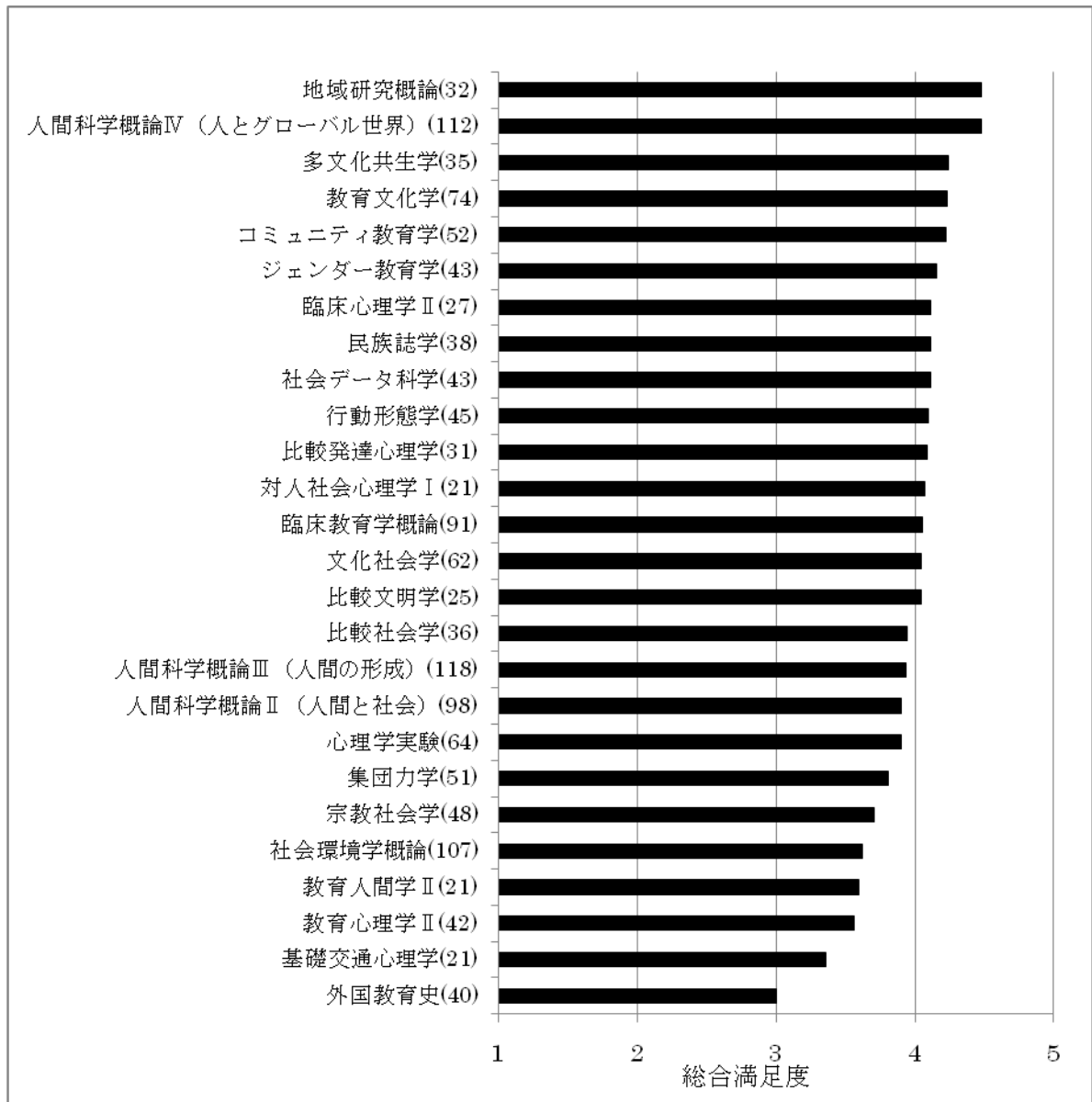


図 11 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）前期

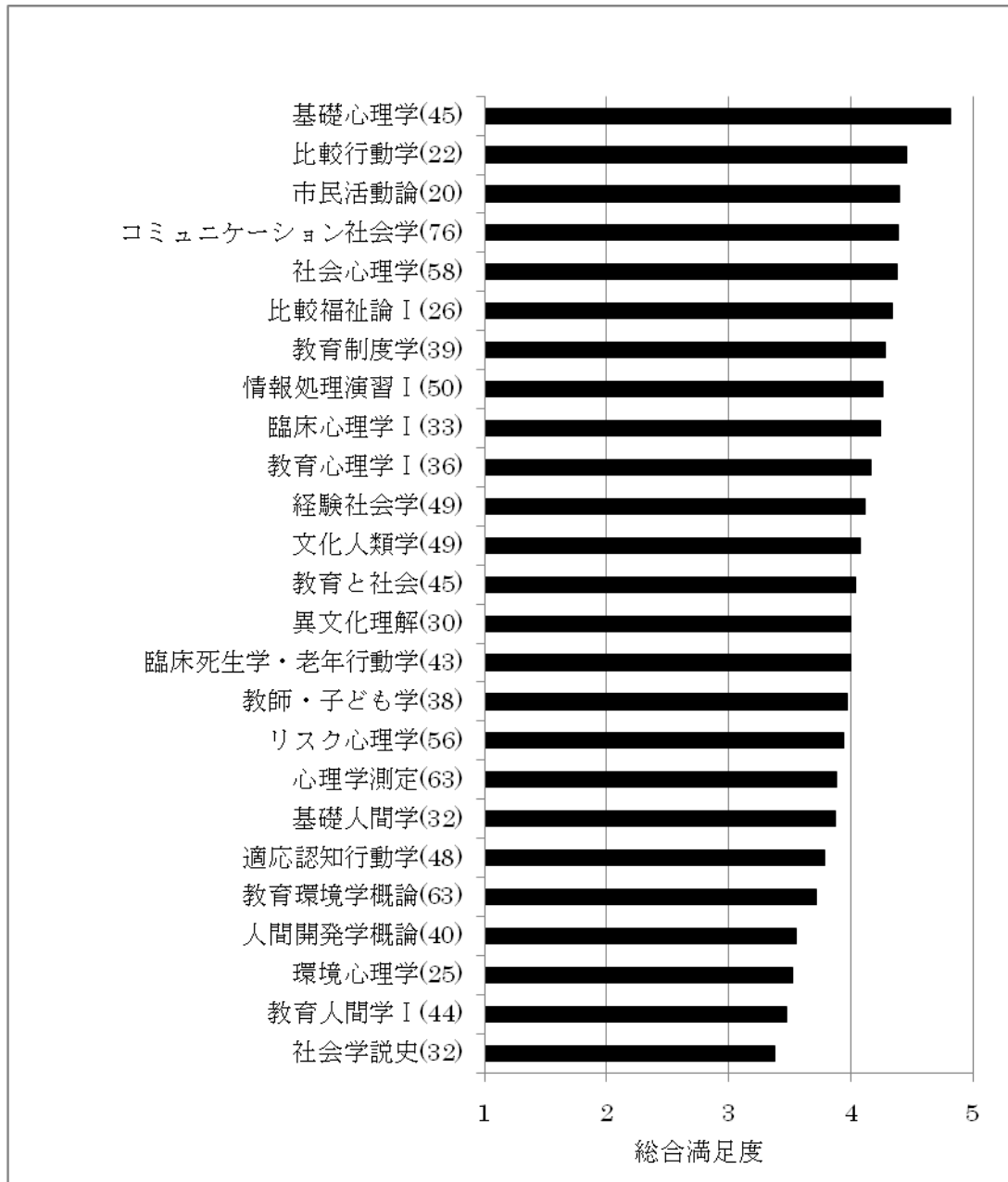


図 12 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）後期

図 11 と図 12 は、学部講義科目（受講者が20名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。得点が高いほど満足であることを意味している。なお、科目横のカッコ内の数字は受講者数を示す。

講義科目で4以上の評価となった科目は、前期では地域研究概論から比較文明学までの15科目、後期では基礎心理学から臨床死生学・老年行動学の15科目であった。前期においては、教育学科目が5、行動学科目が3、社会学科目が2、人間学科目が2、ボランティア人間学科目が1、グローバル人間学科目が1、共通科目が1であった。後期においては、行動学科目が4、社会学科目が3、教育学科目が4、ボランティア人間科学科目が2、人間学科目が1、共通科目が1であった。

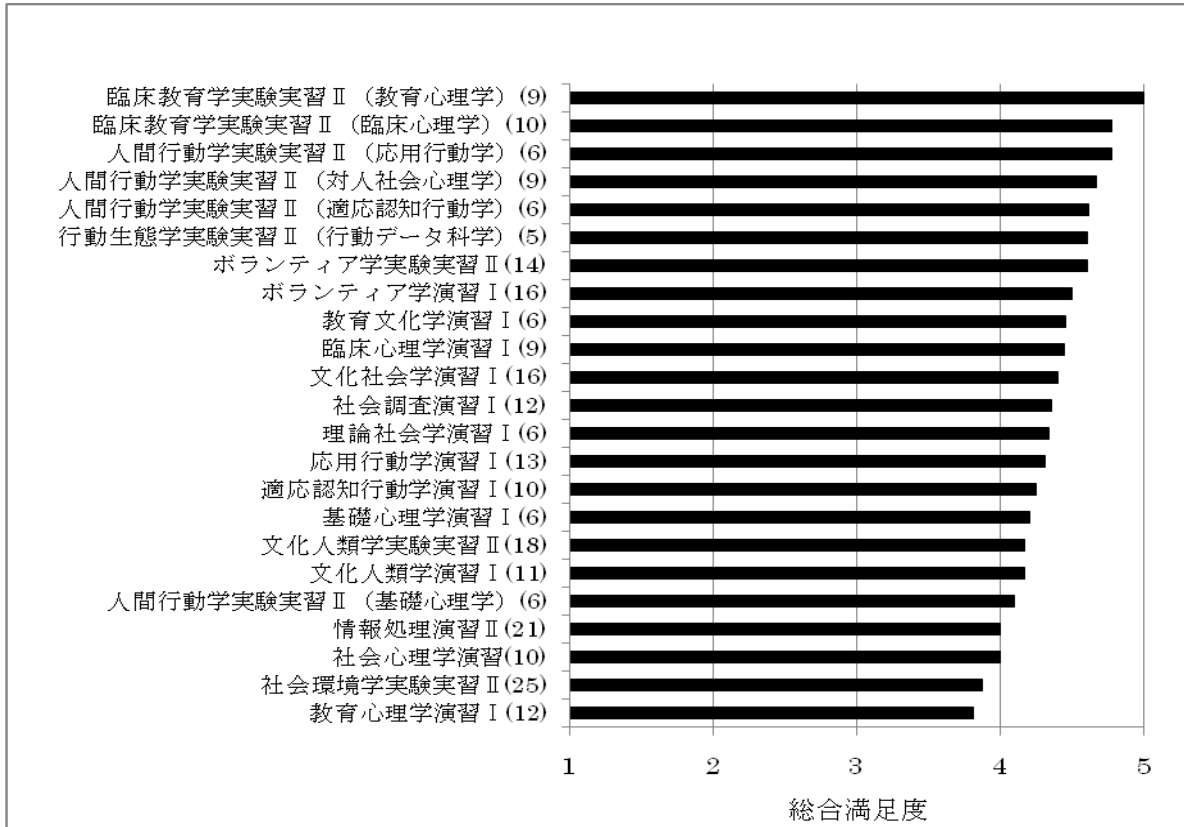


図 13 学部演習・実習科目の満足度の比較 (受講生が5名以上) 前期

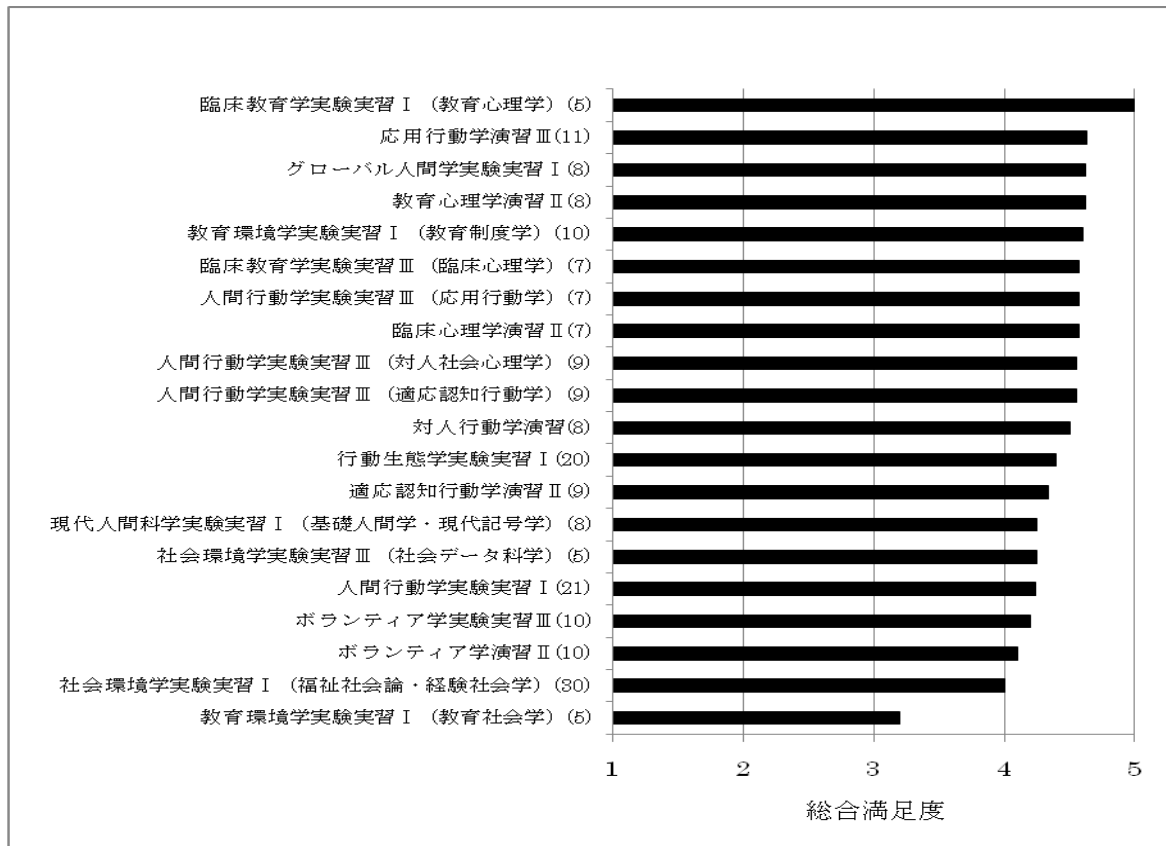


図 14 学部演習・実習科目の満足度の比較 (受講生が5名以上) 後期

図 13、図 14 に、学部演習・実習科目（受講者が 5 名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。講義計科目に比べて、全体的に満足度が高くなっている。この傾向は例年の調査と同様であるが、演習・実習科目が講義科目と大きく異なっている点は、少人数で経験・実践を行うという密度の高さである、この特徴が学生のコミットメントを高め、満足度を高めることにつながっていると考えられる。

【大学院科目】

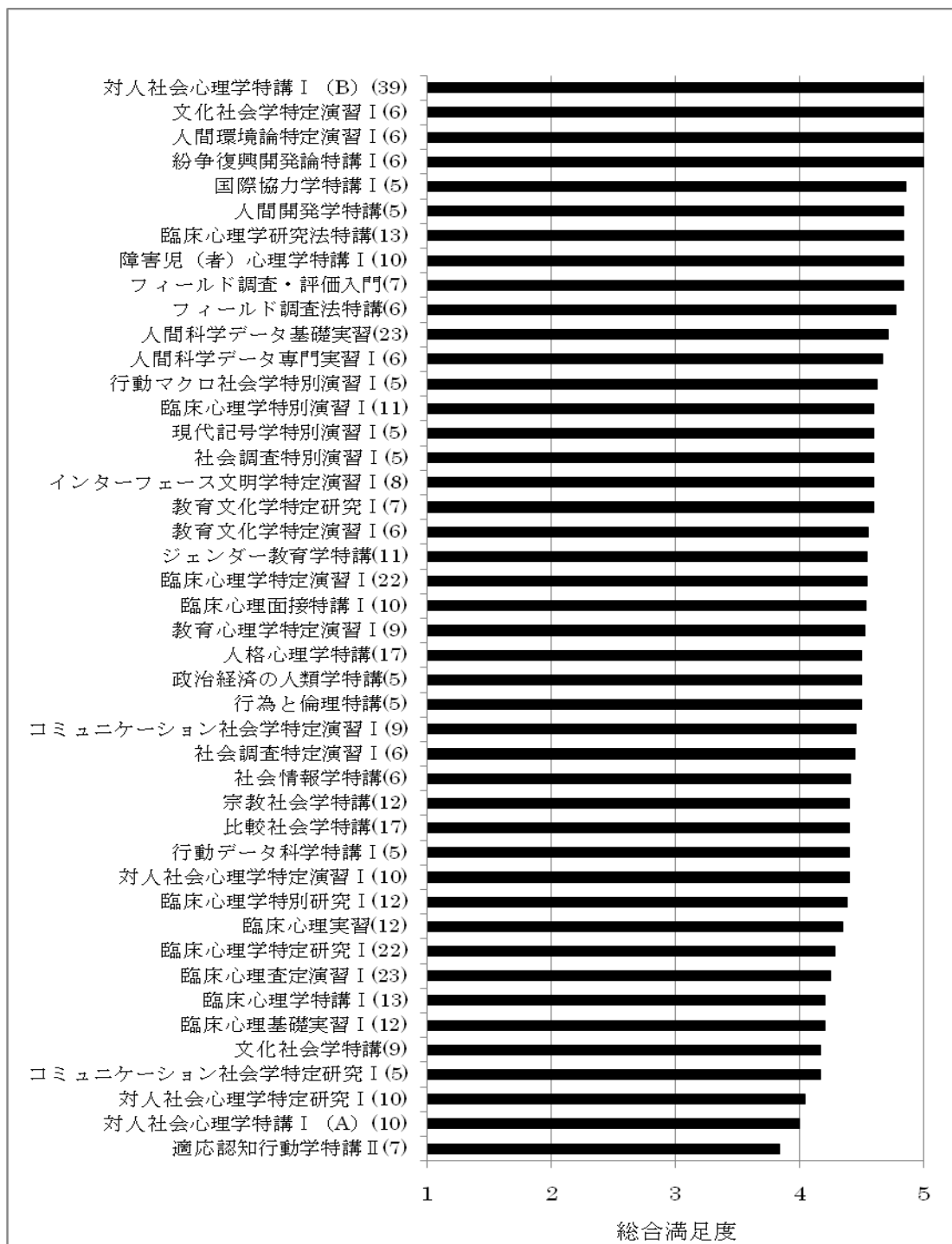


図 15 大学院科目の満足度の比較（受講生が 5 名以上）前期

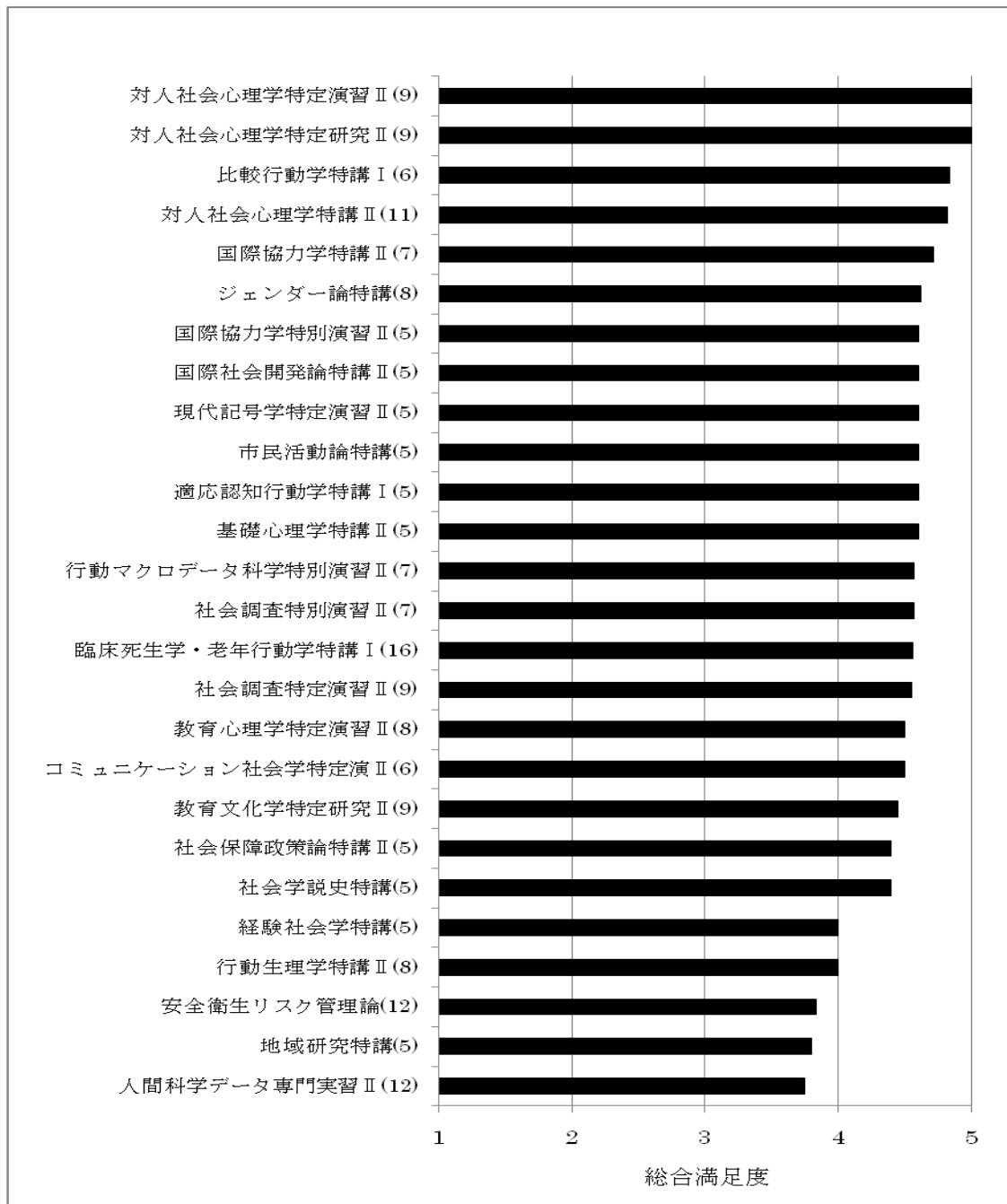


図 16 大学院科目の満足度の比較（受講生が5名以上）後期

図 15 と図 16 に、大学院科目（受講者が5名以上の科目のみ）の満足度を示す。全体的に学部科目よりも満足度が高い傾向がある。これは、学部生に比べて学術的関心がより明確になっている大学院生が自分の関心に沿った科目を選択し、それらの科目が多くの場合少人数で実施されていることによると思われる。